

④昭和40年2月「県政ニュースNo.65」

【ふるさと散歩—湯沢市】 湯沢市は酒の国秋田のなかでもその3分の1を生産するという酒どころで“東北の灘”とも言われて広く知られています。まだ明けやらぬ午前4時、威勢のよい酒屋歌に乗って酒造りが始まりました。市の租税収納額約15億円のうち、酒税が84%約13億円を占めるという、まさに“酒の町”です。酒と並んで湯沢の誇る「曲げ木木工」。秋田木工株式会社は創業の明治43年以来、一貫して曲げ木イスを作ってきた国内メーカーの老舗です。製品のほとんどは県外出荷ですが、外貨獲得にも一役買っています。これは11年前に発足した「湯沢市民交響楽団」。医師・会社員・学生などそれぞれ忙しい仕事を持った人たちの集まりですが、定期演奏のほか近隣町村や学校に出向いて音楽教室も開いたりする、市民の誇る文化団体です。300年の伝統を持つ「湯沢凧」。元禄年間に佐竹藩士が持ち帰ったのが始まりと言われているだけに、この地に伝わる七夕とともに、京都の香りが高く、図柄色彩ともに優れた民芸品です。大空を乱舞する凧の魅力に憑かれた人たちが、今日も寒さを忘れたように、余念がありません。

立春も過ぎ、雪のふるさと湯沢にも、ようやく春の兆しを感じられます。長く厳しい冬を耐え抜いた人たちだけに、伝わる本当の春の喜びが町いっばいに広がるようです。



⑤ 昭和44年4月「県政ニュースNo.112」

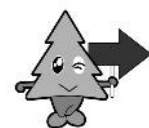
【“八郎潟干拓工事”完成】 琵琶湖に次いでわが国第2の広さを誇った八郎潟も干拓工事が終わり、新しい大地としてその姿を変えました。そして工事の完工を祝う式典が3月23日、総合中心地大潟村小中学校の講堂で行われました。式には農林省や工事関係者入植者たちおよそ500人が出席し、出口八郎潟干拓事務所長が工事の経過を報告した後、事業の完成に功績のあった関係者や功労者に感謝状を贈り、式を閉じました。

一方、工事の完成を前に昨年11月に開校した大潟村小中学校では初めての卒業式が行われました。この日の卒業生は小学生が11名、中学生5名と人数は少なくとも校長先生を中心にみんなで力を合わせて困難に打ち勝ってきました。大潟村の第1期生、第1期の卒業生であるこの子たちの意識の中に「パイオニアの卵である」という自負自信がしっかりと刻まれているようです。新生の大地大潟村を背負って立つこの若人たちには、近代農業を担う無限の期待が寄せられています。

～次回は11月1日（日）に開催予定です～

■ 秋田県公文書館 ■

〒010-0952 秋田市山王新町14-31
TEL 018-866-8301
FAX 018-866-8303
E-mail koubun@apl.pref.akita.jp



【公文書館からのお知らせ】
平成27年度企画展「藩政期の秋田」
前期：8月29日（土）～9月23日（水）
後期：10月31日（土）～11月30日（月）

当館2階特別展示室にて開催中！

県政映画上映会

～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～

平成27年8月29日（土） 秋田県公文書館 3階 多目的ホール
午前の部 11:00～正午 午後の部 14:00～15:00

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

◆ 前半 ◆

① 昭和41年9月「県政ニュースNo.81」

- ・『県の記念日』を祝う
…記念式典、県政モニター懇談会、県勢展
- ・若い力—明日の農村をになう—
(県立能代農業高等学校)

② 昭和43年2月「県政ニュースNo.98」

- ・豪雪について移動県庁（旧角館町）
- ・千秋の塔にふるさとの雪（秋田市千秋公園）
- ・生活総合センター完成（旧雄和村大正寺）
- ・雪山で冬を越す牛（旧田沢湖町）

◆ 後半 ◆

③ 昭和34年「県庁舎の建設」

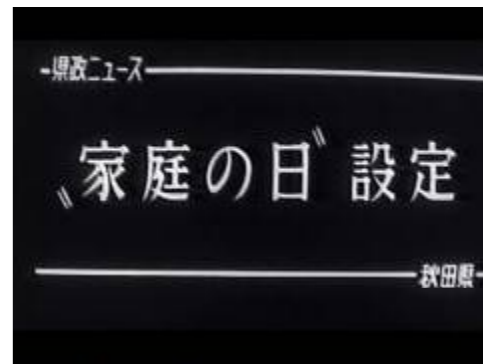
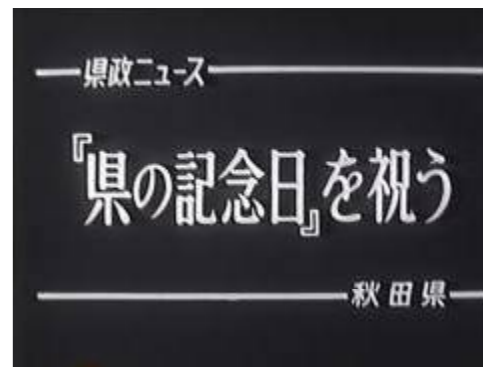
秋田県庁舎は昭和32年8月焼失した。新しい庁舎を八橋地区に建設し、昭和34年12月竣工するまでを描く。

④ 昭和40年2月「県政ニュースNo.65」

- ・“家庭の日”設定
- ・ふるさと散歩（湯沢市）
…酒造り、曲げ木木工、市民交響楽団、湯沢凧

⑤ 昭和44年4月「県政ニュースNo.112」

- ・“八郎潟干拓工事”完成
…工事完工式典、大潟村小中学校卒業式
- ・脳血管研究センター診察はじまる
- ・大忙しの県消費者生活相談所
- ・ふるさとの四季（旧合川町）
…合川猿倉人形、万灯火



～はじめに～



郷土秋田のニュース映像を5本上映!

かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で幕あいに上映され、その時々々の県政に関するニュースや各地域の話題などを提供していました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し大勢でご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は「県の記念日」制定50周年にちなみ、制定年の昭和40年頃のニュースや、昭和34年県庁舎竣工の映像など、5本の作品を上映します。

どれも当時を偲ばせる貴重な映像ばかりです。懐かしい昭和の秋田をぜひご覧ください。

～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■

① 昭和41年9月「県政ニュースNo.81」

【『県の記念日』を祝う】 第2回「県の記念日」を祝う記念式典が、秋田市の県民会館で開かれました。これは明治4年廃藩置県によって初めて秋田県の名称が使われた、8月29日を「県の記念日」として県民がお互い力を合わせて豊かで住みよい郷土をつくろうと、昨年（昭和40年）制定したものです。今年も長年に渡り、もくもくと世のため人のために明るい善行をしてきた人や、地方自治の発展に尽くした人たちがそれぞれ晴れの表彰を受けました。

一方、記念日にちなんだ行事の一つとして、県正庁では「県政モニター懇談会」が開かれました。この県政モニターは、県が毎年各市町村を通じて450人を委嘱していますが、モニターからは葉書などで県政に対する批判や要望を出してもらっています。小畑知事から県政の重点施策について話があった後、この日出席した中央地区のモニターの中から9人の代表が農業後継者問題や青少年問題について質問や要望を述べ、熱心な懇談が行われました。



また、県政の現状と将来の構想を県民に広く公開して県政に対する理解を深めてもらおうと、「県勢展」が秋田市体育館で開かれました。この県勢展は秋田県制がしかれて今年で95年になりますが、この間総合開発計画の線に沿ってめざましい躍進を続けている秋田県の全貌を図解や写真、模型などで分かりやすく展示したものです。八郎潟新農村の姿、田沢地区や能代地区国営パイロット事業、そして総合開発計画、新産都市建設をテーマにした郷土づくりのビジョンなどが広く紹介されました。この県勢

展は秋田市のほか、大館、横手でも開かれ、盛況のうちに幕を閉じました。

② 昭和43年2月「県政ニュースNo.98」

【千秋の塔にふるさとの雪】 沖縄に眠る県出身兵433人の英霊を祀る沖縄千秋の塔に、このほど懐かしいふるさとの雪が贈られました。この日会場の秋田市千秋公園には、小畑知事をはじめ遺族の中村千代さん80歳ら大勢の人たちが集まりました。真夏の沖縄で一滴の水も飲めずに苦闘の末死んでいった兵士たちに、千秋公園の雪を供えて慰めてやりたいと、悲しみを新たにしていました。肉親たちの追悼の言葉と懐かしいこのふるさとの雪は、沖縄に眠る433柱の英霊を慰めてくれることでしょう。



③ 昭和34年「県庁舎の建設」

新しい秋田県の象徴として、県民の大きな期待と関心が寄せられていた県新庁舎は昭和34年12月、めでたく完成しました。

去る32年8月、不慮の火災にその大半を消失した県庁舎の建設は、新たに官公庁街となる秋田市八橋地区の一画を敷地として着工することになり、その建設計画が進められたのであります。県では現地に建築事務所を設け、直ちに敷地測量とボーリングによる地質調査を開始



しました。一方、設計は建設省に依頼し、地下1階地上6階の鉄筋コンクリートづくりとする計画のもとに作業が進められました。こうして昭和33年4月14日、建設大臣をはじめ関係者多数出席のもとに現地で起工式が行われ、県庁舎建設の第一歩が踏み出されたのであります。

（中略） かくて昭和34年12月7日、県民の大きな希望を積んでここに堂々と完成。この日午前9時開庁式が行われ、全庁員が見守るうちに小畑知事の手でテープが切られました。続いて正庁において竣工式が行われ、新庁舎の門出を喜び合ったのであります。



明るい本館の中央ホール。玄関の左側には、映画も上映できる県民ホールや来客者の休憩室を備えた広く落ち着いた感じの県民室があります。2階に通ずる中央階段、開放的で明るい一般事務室、3階の知事室。本館の1階と2階の渡り廊下から通ずる議事堂、本会議場、議場ロビー。屋上の展望台からは秋田市の全景が望めます。県ではこの日から9日間、新庁舎を広く一般に公開するとともに、庁舎いっぱいを使って県勢展を催しましたが20数万の人出に賑わいをみせました。

こうして、新しい官公庁街に変わろうとする秋田市山王通りの一画に県庁舎が完成、県政至上輝かしい第一歩を記したのであります。

